

2025年度学生モニター制度実施報告

学部/概要	法学部(法律学科)
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生科目である「法学入門演習」および「法学入門」について ・法曹コースについて ・演習について ・授業の実施形式について（オンライン授業について）
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生科目について、受講者から高く評価された授業内容・方法を学科学会において共有し、各教員の授業改善に役立てる。 ・法曹コース生および法曹志望学生の要望を学科学会において共有し、各教員が丁寧に対応する。 ・ゼミ募集の制度運用に関する学生の要望を学科学会において共有した上で、適切な案内方法等について検討する。 ・オンライン授業のより効果的な実施方法について、学生の意見を学科学会において共有し、各教員の授業改善に役立てる。
対応策の実施時期	随時
学部/概要	法学部(国際政治学科)
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・国際政治学の各分野の紹介について ・オムニバス形式の授業形態について ・講義方式について ・ゼミへの案内について ・学生意見の伝達方法について ・評価方法について
今後の対応	「国際政治への案内」の授業において、各教員のゼミ紹介とその選考方式に関してガイダンスしていきます。カリキュラムのコース制については当分は運用の改善に努みながら、制度の改善を図っていきます。
学部/概要	法学部(政治学科)
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシーに照らし、これまでの授業をどのように評価するか 良い点、悪い点、改善点について具体例とともに説明してください ・カリキュラムポリシーに照らし、これまでの授業をどのように評価するか 良い点、悪い点、改善点について具体例とともに説明してください
今後の対応	大規模講義における学修参加の在り方、授業において用いるレジュメの設計、履修の自由度と体系的バランスについて、学生の経験に基づく重要な意見として受け止め、学部学科内で問題意識の共有を図った。今後とも、学生の学修実態や学修成果に関する声を継続的に把握しながら、教育の質保証の観点から、必要に応じて検討を重ねていく。
対応策の実施時期	2026年度以降の授業運営およびカリキュラム運用について、学部教授会、学科学会等の場で、適宜検討を加える。
学部/概要	文学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文学部の教育目標と4つのポリシーについて ・留学生として、学習面で課題があるか ・留学生として、生活面で課題があるか ・留学生として、学部や大学に期待したいことがあるか
今後の対応	2026年度より日本語教育センター科目が6科目新規開設され、文学部では自由科目として履修できるため、留学生に履修を促すよう周知に努める。「ラーニング・サポーター」制度を利用して、文学部として留学生の学修の支援などを行う。
対応策の実施時期	2026年度以降。
学部/概要	経済学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学部の市ヶ谷移転について ・入門ゼミについて ・語学系科目の選択状況、クラス人数について ・1年次と2年次(以降)の教育内容について ・専門教育科目について ・演習(ゼミナール)について ・カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーについて ・経済学部の4つのポリシーが学生に浸透しているか
今後の対応	今回寄せられた意見を学部教員間で共有するとともに、今後の教育内容の改善に活かしていきます。
学部/概要	社会学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・履修制度について（コース制度の満足度、時間割の重複、GPA評価基準など） ・卒業論文・ゼミについて（執筆へのモチベーション、就職活動との両立、強制力など） ・大学運営・システムについて（学習支援システム「Hoppii/WebClass」の使い勝手、情報周知など） ・キャンパス施設・学生生活について（バス・学食の混雑、印刷環境、英語学習環境など）
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割・運営の点検 必修科目と主要な選択科目の重複など、運用上の工夫で解消可能な課題については、次年度以降の時間割編成において調整を検討する。 ・学習指導の継続的検討 卒論やゼミへの接続、およびコースのあり方については、学生のニーズを踏まえつつ、学部内の委員会等で中長期的な視点から改善を協議する。 ・関係部署への要望 学習支援システムやバス、施設設備など、学部単独で対応困難な事項については、学生の声を全学の所管部署へ共有し、環境改善を要望する。 <p>【具体的要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス増便やダイヤ調整（交通問題）、印刷用PCの増設、Wi-Fi・電源環境の整備など、ハード面の課題について大学本部へ改善を申し入れる。 ・学習支援システムのUI/UX改善、機能統一、リマインド機能復活について要望を出す。
対応策の実施時期	<ul style="list-style-type: none"> ・2026年度より順次実施（時間割編成や履修モデルの見直し等） ・即時～継続検討（施設・システムに関する全学への要望提出）
学部/概要	経営学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・経営学部のポリシーに対する理解度 ・経営学部のカリキュラムに対する理解度 ・学部の授業運営に関する要望 ・入ゼミの手続き方法やゼミの意義 ・キャリア設計やその際のキャリアセンターの活用について ・商業高校指定校推薦入学者の資格取得状況やキャリア設計について
今後の対応	<p>学部ポリシーに関しては、学生が文言としてのポリシーを十分に理解しているとは言えないものの、実際の学生像や学修態度はポリシーに沿ったものとなっている点が確認された。今後は、オリエンテーションや初年次教育科目等において、ポリシーを単に提示するだけでなく、具体的な学修行動や将来像と結びつけて説明する工夫が求められる。</p> <p>カリキュラムについては、学生が早期に全体像を把握し、主体的に履修設計を行っている点が評価できる。一方で、起業家教育、ビジネスコンテスト、経営とAIといった新たな科目への期待が示された。これに対しては、既存科目の内容充実に加え、特別講義や短期集中型科目、他学部・他機関との連携によるプログラム導入など、柔軟な形で対応することが考えられる。また、評価方法のばらつきについては、学部内で評価基準の共有やガイドライン整備を進め、学生の納得感を高める必要がある。</p> <p>授業運営面では、対面とオンデマンドの併用や、講義型授業のオンデマンド化への要望があった。これに対し、授業の特性に応じた実施形態の整理や、教員への支援体制強化を通じて、学修の柔軟性と質の両立を図ることが重要である。また、Hoppiiの操作性に関する指摘については、学部として改善要望を集約し、大学全体へのフィードバックや学生向けの利用ガイド整備を行うことが望ましい。</p> <p>入ゼミについては、教育的意義が高く評価されている一方、時間割との重複や手続きの煩雑さが課題として挙げられた。今後は重要イベントの日程調整や情報の一元化を進め、より多くの学生が参加しやすい制度設計が求められる。</p> <p>最後にキャリア支援に関しては、学生の意識は高いものの、キャリアセンターの活用が限定的であることが分かった。今後は低学年向けの活用事例紹介や、強みだけでなく課題改善に踏み込んだ支援の充実を図ることで、より実効性の高いキャリア支援につなげていく必要がある。商業高校指定校推薦入学者については、次年度以降の継続的な調査を通じ、実態把握と支援策検討を進めたい。</p>
対応策の実施時期	教授会等で問題提起をして具体的な改善案を練りつつ、中期的に取り組む。

2025年度学生モニター制度実施報告

学部/概要	国際文化学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学時の初年次教育（大学の学びに必要な基礎教育）、アカデミックスキルズ（専門的な学習や研究に取り組むにあたっての能力）についての学部での取り組みについて ・SA（Study Abroad）、派遣留学などの留学制度について ・演習・卒業研究について ・大学生生活全般について
今後の対応	<p>学修を進める上での初年次教育およびアカデミック・スキルズの重要性について、チュートリアルを実施した最後の学年にあたる現在の4年生から意見を聴取することができ、今後必要とされる教育内容を検討するうえで有益な示唆を得ることができた。</p> <p>また、本学部の教育において中核をなすSA等の留学プログラムについては、現在様々な検討が進められているところであるが、学生からは留学に関する実際の経験に基づいた意見が示された。</p> <p>さらに、本学部の教育体系における演習（ゼミ）および卒業研究の位置付けや意義、それらを必修化した場合に想定される課題についても議論を行った。</p> <p>各質問で学生の意見が分かれている場合もあり、今後の対応について現時点で即答することはできないものの、今回の学生の意見を踏まえつつ、より適切で実効性の高い教育プログラムの構築に向けて、引き続き検討を進めていきたい。</p>
学部/概要	人間環境学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ①大学生生活 <ul style="list-style-type: none"> ・授業方法・成績評価、学部の学習支援・学生相互のフォロー、学生生活全般、就職活動について ②学部の授業・カリキュラム <ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラム、学部の3つのポリシー、語学科目、初年次科目、フィールド系科目、コース制、研究会、カリキュラムに関する要望について ③学部のイメージ・見え方 <ul style="list-style-type: none"> ・入学に際して学部選び、入学してからの学部の雰囲気、国際化の取り組み、学部の広報活動、社会連携活動、学部のイベント、学部刊行物などについて
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・2026年度から新カリキュラムが発足するので、その新カリキュラムの運用と学生の受容の状況を見極めながら、必要に応じて調整していきたい。 ・施設面などについては、施設部など関連部局と連携をとりながら対応していきたい。
対応策の実施時期	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム全般については、2026年度発足の新カリキュラムの経年状況を踏まえながら次のカリキュラム改革で対応する。 ・「人間環境セミナー」の履修者数の管理方法については、最大限速やかに取り組みたい。
学部/概要	現代福祉学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業所要単位について ・カリキュラムについて ・入試制度・入学時の学力について ・科目履修・各種授業科目について ・大学・学部の留学制度について ・各種事務手続きについて ・多摩キャンパスの施設・設備、通学環境について ・ソーシャルワーク実習および精神保健ソーシャルワーク実習について
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ①1年生の段階では履修相談会があったが、2年生以降はなく、不安な人もいる。2年生以降にも履修相談会があっても良いのではないか。→2年生の学生も利用できる、ラーニングサポーターによる履修相談会をガイダンス期間中に設けている。2年生の学生にもホームページで周知するとともに、ガイダンスでも言及する。 ②1年生の授業の担当がなかったり、サバティカル中の先生もいる。ゼミ説明会等では先生のことを知るのに時間が足りなかったと感じる。→ゼミ選考のプロセスを検討し、今年度からは選考期間を後ろ倒しにすることとなった。これにより選考開始まで、情報収集や教員とのコミュニケーションを取る時間を確保できた。 ③3領域あり、横断型に勉強できるという良さがあるが、学年が上がると他領域の科目が取れなくなってしまう。学年があがっても横断的に学ぶ機会があると良い。→9月に、法政大学現代福祉学部25周年記念事業「2050年Well-beingの未来予想図」(※1)を実施し、在学生・卒業生、地域住民、名誉教授・教職員等が集い、3領域を横断的に学ぶ意義を確認する機会を設けた。あわせて、本事業の記念動画(※2)も作成し、当日参加できなかった人、学外者にも本学部の3領域の学びを伝えていく。 (※1) 学部ホームページ「現代福祉学部創設25周年記念祝賀行事を開催しました」 https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/pickup/article-20250930153939/ (※2) 学部ホームページ「現代福祉学部創設25周年記念動画「現福の学びを、未来へ繋ごう」を公開しました！」 https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/pickup/article-20251224145619/ ④付属高校出身だが、高校時代に、「この学部で何を学ぶのか」「大学ではどんなことをするのか」が想像できるような機会がもっとあればよかったと思う。生の声を聞きたい。→現代福祉学部での学びの実際を伝えるため、本学部ホームページ上で学部の授業やゼミの様子、本学部特有の国内研修の様子などの記事を今年度に10本以上配信した(※3)。 (※3) 現代福祉学部ホームページ https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/ ⑤新学習支援システムについて担当の先生によって連絡手段、授業の資料配布の手段が異なるため、ある程度、統一してほしい。 →2026年1月14日の教授会懇談会にて「Hoppiiの連絡機能統一化について」という議題で事務職員作成の資料に基づき学習と意見交換を行い、連絡手段について確認した。また、同懇談会での意見交換を踏まえ更新した資料「学生への連絡手段について」を学部教員に共有した。 ⑥留学制度について（2年次以降も）学生に伝わるよう、説明を充実するのはどうか。 →次年度から2年次以降の学生のガイダンスでも留学制度に関する説明を実施する。
対応策の実施時期	<ul style="list-style-type: none"> ①は、一部、次年度のガイダンス期間中に実施。 ②～⑤は、今年度中に対応済み。 ⑥は、次年度のガイダンス期間中に実施。
学部/概要	情報科学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学内施設・設備におけるバリア(車椅子利用時の動線、教室設備、トイレ、食堂等) ・カリキュラムおよび授業運営に関する課題(必修科目、試験・課題のフィードバック、演習のサポート体制等) ・大学のサポート・情報提供体制(Hoppii、キャリア支援、貸与PC、事務連絡等)
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・内容については教授会で共有し、改善可能な点から順次対応する。 ・老朽化した設備やWi-Fi環境の改善については、小金井調整会議等の場を通じて継続的に要望を行う。 ・システム運用(Hoppii、貸与PC、事務連絡等)については、担当部署と情報を共有し改善を促す。
対応策の実施時期	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用上の配慮や教授会での呼びかけなど、即応可能な事項は随時実施済み。 ・演習授業の際、TAや教員が積極的に机間巡回を行うよう教授会を通じて呼びかけを実施したところ、従来よりも学生から質問が出るようになるなど、一定の改善が見られた。

学部/概要		キャリアデザイン学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・参加したインターンシップの数、業種、場所、時期、曜日・時間、報酬 ・インターンシップの内容、指導者・メンターからの働きかけ ・そのインターンシップに参加した理由、選考の有無 ・インターンシップの選考や参加が大学の授業履修に及ぼした影響 ・インターンシップ先と就職活動あるいは内定先企業との関係 ・インターンシップに参加してからの総じての評価 	
今後の対応	聞き取りをしたモニターは、「三省合意」によるインターンシップの定義には該当しないインターンシップに参加していた。つまり、就業体験をする、かつ、実施期間5日以上（うち半分を超える日数を就業体験に充当）、などの要件を満たすものではなく、インターン先が設定した課題のグループワーク、あるいは「ワンデー」での交流などであった。 インターンと本採用が要求する活動に時間とエネルギーが費やされ、学修に負の影響があることは否めない。ゼミや関連講義、学部イベントなどで、バランスのととり方などについてガイド・助言していきたい。	
学部/概要		デザイン工学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学部独自の英語教育専門の講師の派遣システムの是非、 ・英語能力の向上につながる内容であったか、 ・講義時間、受講年度は、英語能力向上に有効か、 ・1年次に集中授業としていることについて ・クラス分け授業のメリット・デメリット、 ・学生の英語習得に対するモチベーション、 	
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・下記の検討を行う、 ・途中でのクラス入れ替え制度 ・授業内で完結する英語学習方法 ・実践的な英語コミュニケーション能力の育成方法 ・オンライン学習ツールの活用 	
対応策の実施時期	次期カリキュラム（2027年度）	
学部/概要		理工学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・入学経路別（付属校・指定校）大学進学時の進路決定について ・影響のあったメディア（SNS、ウェブ、紙媒体） ・出身高校の進路指導状況について ・所属学科のカリキュラムについて ・学部の学修支援体制（授業内容や方法、設備）について ・課外活動について ・キャリア相談会への参加状況 ・自由意見 	
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・聴取した意見は、教授会で共有し、簡単に対応できることは対応する ・詳細は、各学科に伝え、広報や、学生指導の際に留意する要素とする。 ・設備などについては、該当担当部署に伝え、問題意識の情報共有を行う。 	
学部/概要		生命科学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部の3つのポリシーについて ・カリキュラム及びカリキュラムマップについて ・TAやラーニングサポーターについて ・英語教育について ・情報教育について ・研究室配属について ・リメディアル教育について 	
今後の対応	生命科学部の3つのポリシー、カリキュラムについては、ガイダンスなどを通じて学生へのさらなる周知を図る。カリキュラムについての意見は、今後のカリキュラム変更などの参考とする。英語教育、情報教育について得られた意見は関連委員会などと連携を深め、SA、MDAPなどについても学生へのさらなる周知を図る。またリメディアル教育については基盤教育カリキュラム委員会と連携をとり、さらなる改善を検討する。	
学部/概要		グローバル教養学部（GIS）
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・必修科目について ・科目の選択、セレクション制度について ・授業の質について ・ゼミについて ・留学について ・就職支援について 	
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・必修科目間の教育内容の質的格差の是正を図るため、兼任講師向けオリエンテーションで問題点を議論する。 ・各教員にセレクション結果の通知を最低でもセレクション実施日を含め2日以内に行うよう徹底する。 ・毎年履修希望者数が多い「人気科目」については、広めの教室を確保し、なるべく多くの学生が履修できるようにする。 ・セレクションの制度の抜本的改革（抽選制度の導入など）について引き続き議論する。 ・一般科目間の教育格差是正のため、各科目の課題の質や量について確認を行う。 ・ゼミの重要性に関する学生の理解をより深めるため、教員間においても、ゼミの課題や目的について共通理解を深める。 ・公開ゼミ期間の拡張する。 	
学部/概要		スポーツ健康学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシーについて ・カリキュラムポリシーについて・教育方法（対面授業、オンライン授業）について ・実験、実習、実技のアクティブ科目について ・履修選択について ・食堂について ・その他、学部への要望について 	
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシーについて DP-III, DP-VIの達成度向上に向け、語学系の強化（特に専門領域での英語コミュニケーション）や、外部連携を通じた実践機会の提供を継続して検討する。 ・カリキュラムポリシーについて 文理混在の学生背景に対応するため、統計学や物理などについて、高校レベルから大学レベルへの橋渡しとなる基礎導入科目の充実や、段階的な学修設計の必要性を認識し、検討を進める。 ・教育方法（授業形態）について 大人数講義における双方向性（グループワーク、リアルタイムQ&A）の確保や、オンライン授業の質の向上（教員視点の付加）について、各教員へ情報共有を図り改善を促す。部活動等との兼ね合いを考慮した時間割配置についても、実習系科目を中心に検討する。 ・実験・実習・実技のアクティブ科目について 座学と実践の接続を強化するため、学んだ知識をすぐに適用できる場や、実習内容の反復を促す授業設計を検討し、教育効果を高める方策を講じる。 ・食堂について 長蛇の列や席の場所取り、メニューの偏りといった喫緊の課題に対し、テイクアウト導入、注文方式の変更、運用改善（整列動線の可視化、席確保対策）および設備改善（ディスプレイ、清掃頻度）について業者と連携し、早急に検討・対応を進める。 ・その他要望 キャリア教育の段階的拡充、キャンパス移転後の施設運用について、引き続き重要課題として対応を検討していく。 	
対応策の実施時期	現時点では食堂に関する諸問題への対応についてのみ具体的な対応時期が検討されており、最も早い場合は2026年4月から適用される見込みである。	

2025年度学生モニター制度実施報告

学部／概要	市ヶ谷リベラルアーツセンター (ILAC)
モニタリングした内容	1. 200・300番台のILAC非必修選択科目の履修に関して ・科目や科目構成の認知度、履修時の情報源、履修選択の基準 2. 2年次以降の学士課程におけるILAC科目の位置づけ ・200・300番台のILAC非必修選択科目を履修し学修することの主観的意義 ・ILAC科目と学部専門科目との学修上の関係について 3. 200・300番台のILAC非必修選択科目に関する履修支援について ・学生ラーニング・サポーター制度に対する関心の程度 ・「私のベスト時間割」およびそれを紹介することの可否 ・上記以外の方法での履修支援のアイデア
今後の対応	①今年度からILACのWEBシラバスのトップページ左端にナンバリングによるカリキュラム体系図をリンク付きで表示するようにしたので、まずはその効果を注視する。その際、200・300番台科目の表記順など情報提示の仕方に工夫する余地がないか検討する。 ② 現行のWEBシラバスには、入力した検索語でヒットした科目を表示する機能が備わっているので、そうした機能を履修相談で教務部と接点を持った学生などに紹介する。 ③ 学生ラーニング・サポーターによる履修支援については、今回の調査で一定の実現性があることが分かった。今後は、学部の実践例などを参照し、運営面での課題、有効性、持続可能性などに留意して検討を進める。 ④ 今回参加者の学生に作成してもらった「私のベスト時間割」を理由の説明と合わせて、履修例としてILACのWEBサイトなどで匿名化して紹介することを検討する。 ⑤ 「履修の手引き」について指摘のあった点については、HONDANAのWebブック版『履修の手引き』は「目次」からリンクでジャンプできる機能を備えていることを、まずは履修相談で教務部と接点を持った学生などに紹介して周知を進める。また、Webブック版『履修の手引き』（ないし、その中の「ILAC科目の紹介」）へのリンクをILACホームページにも載せることを検討する。 ⑥ (ILAC科目、専門科目) 授業時に教員が研究、学修上の関連性についての説明とあわせておこなう関連科目の紹介が履修のきっかけになることがあるとの回答があったため、そうした情報をILAC運営委員会と共有する。 ⑦ 抽選科目における抽選方法に関しては、各種の事情を踏まえつつ改善の可能性を検討する。 ⑧ 総合科目での取得単位の扱いに関しては、各学部の『履修の手引き』における「ILAC科目の紹介」>「ILAC科目のカリキュラムについて」>「300番台」などでの説明内容を見直す。
対応策の実施時期	前欄に記した①～⑧はいずれも今年度から検討を開始する。そのうち⑥については今年度中の実施、②、④、⑤、⑧については2025年度中の具体化をめざす。
学部／概要	小金井リベラルアーツセンター (KLAC)
モニタリングした内容	・履修・カリキュラムについて ・各科目の印象について (人文・社会・自然科学系、スポーツ健康科学系、選択語学系(英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語)、リテラシー系、数学系、理科系) ・対面授業への復帰について(オンライン授業の併用状況など) ・語学教育について(英語必修授業の内容など) ・サポートについて(履修案内、TA、ラーニングサポーターなど)
今後の対応	今回寄せられた意見を各分科会の専任教員で共有し、理工学部・生命科学部の関係部門とも連携して、改善策を検討する。学習支援システムや貸与PCの改善およびOpenAIの活用については教養教育においても切実な問題であり、改善や対策を要望していきたい。
学部／概要	SSI (スポーツ・サイエンス・インスティテュート)
モニタリングした内容	1. 新カリキュラム実施に伴い新規開講したスポーツ学入門およびスポーツ学演習について 2. 特にどのような科目が有意義であると感じているか 3. SSI科目全般について 4. 大学生活全般について 5. 公認スポーツ指導者資格について
今後の対応	1. について ・スポーツ学入門の配信期間を月曜日から開始することについて検討したい。 ・スポーツ学演習の存在が受講生間で広まっていないため、受講生による口コミに加え、各種ガイダンス等でも受講を促す必要がある。 3. について ・特定の曜日・時限に授業が重複開講されるケースを改善するため、時間割の再編について検討する必要がある。 ・教員によって欠席願や代替課題の扱いが異なる点について、今後の検討課題としたい。 5. について ・SSIガイダンスやスポーツ学入門等の必修科目において、引き続き公認スポーツ指導者資格に関する周知を継続していく必要がある。
対応策の実施時期	今後、上記を中心に検討し、実施可能な案件から採用していきたい。